

3206 046

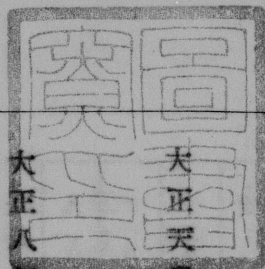
大正天皇實錄

卷七十二

圖書寮	
編號	64047
冊數	97
品號	〔裝〕 4

7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9





大正天皇實錄 卷七十二

大正八年 實算四十一歲

御遠和ニヨ  
リテ四方拜  
ナシ

一月一日、御遠和ニヨリ四方拜ニ出御アラセラレズ、  
 歳旦祭御代拜ヲ侍從伯爵清水谷實英ニ命ゼラル。午前八  
 時鳳凰閣ニ出御、晴御膳ノ式アリ、以下諸儀ハ恒例ノ如  
 ク之ヲ行ハセラル。侍從職日記・典侍日記・侍從  
 武官府日誌・儀式錄・祭祀錄  
 三日、元始祭御代拜ヲ掌典長公爵九條道實ニ命ゼラル。

大正八年一月

猶ホ是ノ歳、宮中各祭典ニ御代拜ヲ命ゼラルルコト左表ノ如シ。侍従職日記・典  
侍日記・祭記録

月日	御祭典	御代拜
一月十一日	多喜子内親王二十年式年祭	侍従 河鍋實英
同 卅日	孝明天皇例祭	同 落合爲誠
二月十一日	紀元節祭	掌書長公爵九條道實
三月廿二日	春季皇靈祭	同
七月卅日	明治天皇例祭	同
九月廿四日	秋季皇靈祭	同
十一月廿三日	新嘗祭	侍従男爵徳川義徳
十二月十二日	光格天皇例祭	同 子爵松平慶民
同 十五日	賢所御神樂	同

依仁親王  
朝復命

四日、午前十時ヨリ政始ノ儀ヲ行ハセラルル事例ノ如シ。侍従職日記・典  
侍日記・儀式録

五日、正午豊明殿ニ於テ新年宴會ヲ行ハセラルルコト恒例ノ如シ。侍従職日記・侍従武官  
府日記・儀式録・官報

七日、午前十一時四十分依仁親王歸朝ニヨリ、御使トシテ侍従男爵澤宣元ヲ東京停車場ニ遣シテ迎ヘシム。親王、午後二時十分参内セルヲ以テ謁ヲ賜ヒ、其ノ復命ヲ報聞アラセラル。因ニ親王ハ昨秋英吉利國皇帝トヨ一  
第五世ニ元帥刀。元帥徽章捧呈ノ爲メ勅旨ヲ奉ジテ渡英使命ヲ終ヘ、更ニ佛蘭西・白耳義・伊太利・亞米利加合

依仁親王等  
ニ陪食ヲ賜  
フ

衆國等ノ元首ヲ訪問ノ後、歸朝アリシナリ。尋イデ十三日午後零時三十分豐明殿ニテ午饗ヲ御催アリ。依仁親王竝ビニ博恭王ヲ召シ、英吉利國特命全權大使サー・ウーリアー・カニンガム・グリーン。伊太利國特命全權大使侯爵るいぢ・じえろらーも・くざに・こんふろにえり。亞米利加合衆國特命全權大使ろーらんど・えす・もりす。白耳義國特命全權公使伯爵じよるじゆ・どら・ふあいいゆ。ど・るやえるるげむ。佛蘭西國臨時代理大使ろーじえ・もーぐら竝ビニ内閣總理大臣原敬。宮内大臣子爵波多野敬直。外務大臣子爵内田康哉及ビ親王ノ隨行員陸軍中將柴

圖書寮

陸軍始觀兵  
式ニ行幸ナ  
シ  
御講書始

五郎。海軍中將小栗孝三郎。侯爵前田利爲等ニ陪食ヲ賜フ。侍從職日記。依仁親王。侍從武官府日誌。謁見録。官報。八日、御遠和ニヨリ陸軍始觀兵式ニ行幸アラセラレズ。侍從職日記。典侍日記。侍從武官府日誌。官報。九日、午前十時鳳凰閣ニ出御、御講書始ヲ行ハセラレ、學習院教授松本愛重ヲシテ「日本書紀」卷第二十九天武天皇十四年春正月丁卯ノ條ヲ、正五位土屋弘ヲシテ「易經」一觀ノ卦、觀盥而不薦有孚颙若ノ一節ヲ、東京帝國大學名譽教授男爵穗積陳重ヲシテふすてる。ど・くーらんち著「古代市府論」中、祭祀ト政治法律トノ關係ヲ各

西園寺侯爵  
等ニ賜ヲ賜  
フ

西園寺侯爵  
等ニ陪食ヲ  
賜フ

進講セシム。侍從職日記・儀式祭典  
録・典侍日記・官報

正午、表御座所ニ於テ侯爵西園寺公望。公爵近衛文麿。  
東京帝國大學醫科大學教授三浦謹之助。式部官西園寺八  
郎。外務省囑託松岡新一郎ニ賜ヲ賜フ。尋イデ零時三十  
分千種間ニ於テ午餐ノ御催アリ、載仁親王。邦彦王ヲ召  
シ、西園寺侯爵。樞密院議長公爵山縣有朋。内大臣侯爵  
松方正義。元帥伯爵東郷平八郎。内閣總理大臣兼司法大  
臣原敬。外務大臣子爵内田康哉。宮内大臣子爵波多野敬  
直並ビニ元帥。各省大臣。臨時外交調査委員會委員。樞  
密顧問官等四十七名ニ陪食ヲ賜ヘリ。侍從職日記  
宣召録・官報

圖書寮

近衛秀麿。  
鍋島貞次郎  
ニ授爵

方子女王ノ  
奉擬ニ嫁ス  
ルヲ勅許

是ノ日、近衛秀麿ニ子爵ヲ、正七位鍋島貞次郎ニ男爵  
ヲ授ケサセラル。秀麿ハ故公爵近衛篤麿二男、貞次郎ハ  
侯爵鍋島直映二男、何レモ父ノ勳功ニ依リテナリ。授爵  
録

報官

十日、是ヨリ先、昨年十二月五日方子女王ノ王世子奉  
擬ニ嫁スルヲ勅許アリ、尋イデ本年一月四日勳二等ニ敘  
シ寶冠章ヲ授ケラレシガ、是ノ日賢所。皇靈殿。神殿ニ  
參拜セシメ、夫ヨリ御内儀ニ於テ賜ヲ賜フ。因ニ朝見ノ  
儀ハ御都合ニ依リ之ヲ停メラレタリ。二十二日大勳位奉  
太王冕薨ゼルヲ以テ女王ノ結婚式ヲ延期シ、翌九年四月

河瀨真孝・  
三島毅ニ官  
中杖ヲ賜許

二十八日之ヲ行ヘリ。猶ホ王世子李垠妃方子ニハ特旨ヲ  
以テ女王ノ稱ヲ有セシメラルル旨御沙汰アリタリ。特旨ヲ  
職日

是ノ日、正二位勳一等子爵河瀨真孝等華族高齡者二十

五名ニ恒例ノ如ク御紋附銀杯竝ビニ酒肴料ヲ賜ヒ、真孝

ニハ老年ニヨリ特旨ヲ以テ官中杖ヲ差許サル。又翌十一

日官中顧問官三島毅ニモ同様ノコトアリ。官報・  
恩賜錄

十一日、午前十時英照皇太后例祭ニヨリ、皇靈殿御拜

アラセラル。侍從職日記・典  
侍日記・祭記録

是ノ日、午前十時三十分鳳凰閣ニ於テ海外ニ赴ク陸軍

講和全權委  
員ノ任命

講和會議ノ  
經過

騎兵少佐本田重平ニ勳ヲ賜フ。侍從職日記・官  
報・拜謁參拜錄

十三日、正二位大勳位侯爵西園寺公望。正三位勳一等

男爵牧野伸顯。特命全權大使子爵珍田捨巳。同松井慶四

郎。同伊集院彦吉ニ講和全權委員ヲ仰付ケラル。因ニ既

ニ内命アリシヲ以テ西園寺主席委員一行ハ去ル十一日出

發シ、數旬ノ後、巴里ニ著セリ。猶ホ講和會議ハ既ニ本

月十八日佛蘭西國外務省ニ於テ開催セラレ、紛議ヲ避ク

ル爲メ先ヅ條項ノ作製ニ至ル間、同盟國ヲ除外シ、聯合

二十七ヶ國ノ代表者ノミ討議ニ參加セリ。然レドモ重要

事項ハ殆ンド我ガ國ヲ始メ亞米利加合衆國。英吉利國。

講和條約調印

西園寺委員等ノ歸朝覆奏

佛蘭西國。伊太利國ノ五大國ヨリ成レル會議ニヨリテ議定セラレタリ。斯クテ成立セル講和條文ハ五月六日ニ總會ヲ通過シ、翌日獨逸國側ニ手交セラレタリ。獨逸國ハ講和條件ノ過酷不當ナルヲ以テ類リニ緩和ヲ求メシガ、聯合國ノ決意強固ニシテ容易ニ動ゼズ、爲メニ獨逸議會モ六月二十三日遂ニ之ヲ承認スルノ止ムナキニ至リ、同月二十八日夕タるさいゆ宮殿鏡間ニ於テ調印行ハレシナリ。

斯クテ西園寺講和全權委員等ハ大任ヲ了シ、八月下旬歸朝、二十七日田母澤御用邸ニ參臨セリ、依リテ西園寺

圖書寮

西園寺全權委員ニ御沙汰ヲ賜フ

講和全權委員竝ビニ隨員海軍中將竹下勇。陸軍中將奈良武次。外務省參事官佐分利貞男。海軍大佐野村吉三郎。陸軍歩兵少佐藤岡萬藏。式部官西園寺八郎。東京帝國大學教授三浦謙之助等ニ調ヲ賜ヒ、西園寺講和全權委員ヲシテ講和會議ノ狀ヲ覆奏セシメ、

曩ニ與國ノ對獨講和會議ヲ佛國ニ開キシヤ朕卿ニ委スルニ全權ヲ以テシ往キテ協商ノ事ニ當ラシム今復命スル所ヲ聽キテ其ノ要領ヲ得卿外ニ在リシコト累月苦心焦慮尊祖ノ間ニ折衝シテ克ク任務ヲ了ヘタリ朕卿カ勞ヲ多トシテ深ク其ノ節ヲ嘉ス



牧野全權委員ニ御沙汰ヲ賜フ

ト御沙汰ヲ賜ヒテ、ソノ勞ヲ嘉セララル。正午、公望ニハ宮内大臣子爵波多野敬直。侍從長伯爵正親町實正ト共ニ午餐ノ陪食ヲ賜ヒ、隨員ニハ饌ヲ賜ヘリ。猶ホ九月二十日午前十時講和全權委員男爵牧野伸顯ヲ召シ、講和會議ノ狀ヲ覆奏セシメ叙開アリ、左ノ御沙汰ヲ賜ヒ、勵精刻苦其ノ折衝宜シキヲ得タルヲ嘉尙アラセラル。

朕爰ニ卿ニ全權委員ヲ命シテ講和會議ニ列セシム今其ノ任務ヲ了ヘテ歸リ報ス卿外ニ在リシコト數月勵精刻苦折衝宜キヲ得タリ朕深ク其ノ勞ヲ嘉ス

尋イデ十月三日千種間ニ於テ午餐ノ御催アリ。貞愛親王。

圖書寮

御救恤

依仁親王ヲ召シ、牧野講和全權委員。内閣總理大臣原敬。外務大臣子爵内田康哉。臨時外交調査委員會委員子爵平田東助等二十八名ニ陪食ヲ賜ヘリ。侍從職日記・典侍日記・侍從武官府日記・奉啓錄・官報・拜謁參拜錄・宣召錄・西洋史講話（笑作元八著）

是ノ日、御救恤ノ御沙汰アリ。即チ客歲十一月八日ヨリ十一月ニ亘リ南洋まゝしやる群島暴風及ビ海嘯ノ被害尠カラザリシヲ以テ、罹災者ニ救恤金五千圓ヲ賜フ。爾後、是ノ歲ニ於ケル御救恤ヲ表記スレバ略々左ノ如シ。

官報・恩賜錄

大正八年一月

月日	事	由	救恤金額
一月廿日	北海道釧路町火災		金八百圓

月日	事	由	救恤金額
五月五日	神奈川縣橫濱市火災		金五千圓
同廿七日	山形縣米澤市火災		金貳千圓
同卅日	新潟縣西頸城郡市根村火災		金參百圓
六月七日	秋田縣大館町火災		金六百圓
同廿四日	北海道枝幸郡頓別村火災		金六百圓
七月廿九日	岐阜縣郡上郡八幡町及川合村火災		金千圓
同	島根縣下津浦		金八百圓
同	廣島縣下津浦		金貳千圓
八月廿八日	臺灣臺東廳管内暴風雨		金千貳百圓
同	沖繩縣下暴風雨		金參千五百圓
九月十五日	臺灣總督府管内暴風雨		金參萬圓
同廿九日	靜岡縣下暴風雨		金九百圓
十月四日	朝鮮總督府管内暴風雨		金千五百圓

圖書寮

帝國憲法ノ  
進講

大正八年一月

同 七日	愛知縣下水害	金千圓
同 十七日	北海道廳管内水害	金五百圓
十二月十一日	沖繩縣下暴風雨	金八百圓

十五日、午前十時三十五分樞密院副議長子爵清浦奎吾  
及ヒ樞密顧問官一同ニ謁ヲ賜フ。爾後、屢、コノ事アリ。

侍從職  
日記  
十七日、午前十時四十分風風間ニテ英吉利國ニ赴ク海  
軍機關大佐三善康太郎、同國ヨリ歸朝セル陸軍歩兵少佐  
谷壽夫ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・拜  
謁參拜録・官報

是ノ日、午後一時四十五分宮内省御用掛清水澄ヲシテ  
帝國憲法ヲ進講セシメ、侍從長伯爵正親町實正。侍從次

有地品之允  
亮マ

長伯爵徳川達孝等側近ノ者ニ陪聽ヲ賜フコト例ノ如ク、  
爾後、國務ノ餘暇ヲ以テ屢々進講ヲ繼續アラセラル。從侍  
職日

樞密顧問官海軍中將正三位勳一等男爵有地品之允病篤  
キニヨリ、特ニ位一級ヲ進メ從二位ニ敘シ、旭日大綬章  
ヲ加授セラル。其ノ薨ズルニ及ビ祭料金貳千五百圓ヲ  
賜ヒ、二十日送葬ニ當リ勅使トシテ侍從男爵徳川義恕ヲ  
同邸ニ遣シ幣帛ヲ賜フ。品之允、維新ニ際シテ國事ニ盡  
瘁シ、後、陸軍ニ入り、更ニ海軍ニ轉ジ、累進シテ海軍  
中將トナリ、其ノ間、海軍機關學校長。海軍兵學校長。

圖書寮

歌御會始ノ  
儀

常備艦隊司令長官。吳鎮守府司令長官等ノ要職ニアリテ、  
功績顯著タリシヲ以テナリ。侍從職日記・  
恩賜錄・官報

十八日、午前十時五分皇后ト俱ニ鳳凰閣ニ出御、歌御  
會始ノ儀ヲ行ハセラレ、御題「朝晴雪」ノ御製竝ビニ皇  
后ノ御歌ヲ披講セシメ、併セテ詠進歌二萬六千餘首中ヨ  
リ選バレタル和歌五首ヲ披講セシメラル。侍從職日記・  
典侍日記・儀  
式祭典錄・  
官報

御製

ゆたかにも雪そつもれる秋津しま  
めぐりの海は朝なきにして

御歌

青雲にほふ日かけものとかにて

雪さへかすむこのあした哉

論語ノ進講

二十日、午後二時十分宮内省御用掛小牧昌業ヲシテ論語ヲ進講セシメ、側近奉仕者ニ陪聽ヲ賜フコト例ノ如シ。爾後、國務ノ餘暇ヲ以テ屢々續講セシメラル。特從職

是ノ日、英吉利國第五皇子ジョージ・チャールズニ

ヨリ、同國皇帝ジョージ第五世ニ弔電ヲ發送アラセラレ、

尋イデ二十五日答禮ノ電報ヲ受ケ給ヘリ。外交庶務

二十一日、侍從武官四電孝輔ヲ舞鶴鎮守府海軍志願兵

侍從武官ヲ差遣

圖書寮

徵募區ニ遣シテ其ノ狀況ヲ實視セシム。爾後、是ノ歳ニ於ケル侍從武官差遣ヲ表記スレバ左ノ如シ。侍從武官府  
官報・日誌・進退

月日	差遣先	差遣武官
一月廿四日	陸軍戸山學校修業式	桑田安三郎
二月廿五日	第十四師團幹部演習	尾藤知勝
三月十五日	陸軍野戰砲兵射擊學校修業式	桑田安三郎
同卅一日	陸軍重砲兵射擊學校修業式	尾藤知勝
四月一日	第二師團幹部演習	中田鐵五郎
同 八日	第十四師團	桑田安三郎
同 十二日	東京衛戍大射擊會	尾藤知勝
同 廿一日	第三艦隊	松下東治郎
同 廿四日	陸軍歩兵學校修業式	渡邊爲太郎

大正八年一月

大正八年一月

月日	差遣先	差遣武官
五月五日	軍艦富士	松下東治郎
同 六日	第九師團幹部演習	渡邊爲太郎
同 十三日	陸軍經理學校卒業式	尾藤知勝
同 十六日	第十九師團幹部演習	桑田安三郎
同 廿二日	航空第一大隊飛行機操縱術修業式	中田鐵五郎
同 廿七日	參謀本部戰史旅行	大内義一
同 卅日	吳鎮守府管内簡閱點呼	松下東治郎
同 卅日	憲兵練習所修業式	尾藤知勝
六月十四日	特務船開東	向井彌一
同 廿一日	軍艦八雲	松下東治郎
同 廿五日	聯合艦隊	向井彌一
同 廿七日	第一特務艦隊	松下東治郎
同 廿七日	第二特務艦隊	同

圖書寮

二〇

大正八年一月

同 廿八日	第十二師團	中田鐵五郎
七月七日	第四師團	渡邊爲太郎
同 卅日	第一師管下	中田鐵五郎
同 卅日	佐世保海軍工廠	松下東治郎
同 十日	第十三師團	桑田安三郎
同 十五日	陸軍軍醫學校修業式	大内義一
同 十八日	第三師管下	桑田安三郎
同 十九日	陸軍野戰砲兵射擊學校修業式	尾藤知勝
同 廿二日	陸軍重砲兵射擊學校修業式	大内義一
同 廿六日	第七師管下	渡邊爲太郎
同 廿六日	陸軍騎兵學校修業式	同
同 廿八日	練習艦隊	四電孝輔
同 廿八日	第十二師團	桑田安三郎
同 廿九日	陸軍步兵學校修業式	大内義一

二一

大正八年一月

月日	差遣先	差遣武官
八月二日	第六師管下	中田鐵五郎
同 六日	宇品	松下東治郎
同 廿日	第十一師管下	大内義一
九月一日	第十七師團	中田鐵五郎
同 十九日	步兵第十五旅團及工兵第十三大隊	大内義一
同 廿二日	特別騎兵演習・所澤	桑田安三郎
十月二日	宇品	渡邊爲太郎
同 六日	第十六師團	大内義一
同	特別工兵演習	中田鐵五郎
同 九日	海軍經理學校卒業式	松下東治郎
同	海軍兵學校卒業式	向井彌一
同	陸軍士官學校卒業式	渡邊爲太郎
同 十一日	海軍機關學校卒業式	四電幸輔

圖書寮

二二

軍事講話ヲ  
叙開

大正八年一月

二十四日、午後二時陸軍少將國司伍七ノ軍隊教育ニ關  
スル講話ヲ叙開アラセラレ、侍從長伯爵正親町實正以下

十一月三日	呉海軍工廠	同
同 四日	師團對抗演習	渡邊爲太郎
同	近衛師團機動演習	大内義一
同 六日	横須賀海兵團及横須賀・具・佐世保・錦鶴各海軍病院	向井彌一
同 廿五日	海軍大學校・海軍軍醫學校・海軍經理學校卒業式	四電幸輔
同 廿六日	陸軍大學校卒業式	大内義一
同 廿七日	海軍砲術學校卒業式	松下東治郎
同 廿八日	海軍水雷學校卒業式・海軍航空隊	四電幸輔
同 廿九日	陸軍砲工學校卒業式	中田鐵五郎

二三

側近奉仕者ニ陪聽ヲ賜フ。爾後、軍事ニ關スル講演ヲ報  
聞ノコト猶ホ左表ノ如シ。侍從職日記・侍  
從武官府日記

月日	演題	講演者
五月廿三日	最近米國海軍ニ於ケル電 氣ノ應用ニ就テ	海軍機關大佐 與倉守之助
六月十三日	英國ノ近情	陸軍歩兵少佐 谷 壽夫
同 廿七日	本戰爭中東部地中海方面 ニ於ケル作戰ノ梗概	海軍中佐 森田 登

ぐりーん英  
國大使等御  
引見

二十七日、午前十一時三十分鳳凰閣ニ出御、佛蘭西國  
航空團砲兵大佐ふおーる等二十名ヲ御引見アリ。猶ホ是  
ヨリ先、十時三十分同所ニ於テ不日歸國スベキ英吉利國  
特命全權大使さー・ういりあむ・かにんがむ・ぐりーん

葉山ニ御遊  
宴

ニ謁ヲ賜ヘリ。尋イデ四月一日午後零時三十分豐明殿ニ  
於テ午餐ノ御催アリ、皇后ト俱ニ臨御、載仁親王・同妃  
智恵子・依仁親王・同妃周子ヲ召シ、ぐりーん大使・同妃  
妻及ビ娘竝ビニ内閣總理大臣原敬・宮内大臣子爵波多野  
敬直・外務大臣子爵内田康哉等ニ陪食ヲ賜フ。侍從職日  
記・典侍  
録・官報  
二十八日、午前九時二十五分皇后ト俱ニ御出門、東京  
停車場ヨリ汽車ニ御搭乘アリ、逗子停車場ニ御著車、十  
一時三十分葉山御用邸ニ御安著、爾後、三月二十八日マ  
デ御遊宴ノ爲メ駐蹕アラセラル。其ノ間、三月五日・十

八日ニハ立石御休所ニ、同十三日ニハ油壺附近ニ御遊幸  
 等ノ外、御遠行等ヲ拜セズ、御動靜例歳ノ如シ。猶ホ御  
 遊幸中、皇太子裕仁親王。雍仁親王。宣仁親王。崇仁親  
 王。載仁親王。同妃智恵子。依仁親王。同妃周子。武彦  
 王。博恭王。博義王。邦彦王。同妃倪子。鳩彦王。恒久  
 王。稔彦王妃聰子内親王。故恒久王妃昌子内親王。成久  
 王。故威仁親王妃慰子。故能久親王妃富子。王世子李垠  
 ヲ始メ、謁ヲ賜ヘル主ナル者ニ、教育總監陸軍大將一戸  
 兵衛。主馬頭澁谷在明。東宮侍從長子爵入江爲守。陸軍  
 大將松川敏胤。臨時外交調査委員會委員男爵後藤新平。

侯爵小松輝久。貴族院副議長侯爵黒田長成。衆議院議長  
 大岡育造。内閣總理大臣原敬。陸軍大臣田中義一。海軍  
 軍令部長海軍大將男爵島村速雄。朝鮮總督府政務總監山  
 縣伊三郎。皇子保育官長松浦寅三郎。陸軍大將男爵中村  
 覺。大藏大臣男爵高橋是清。農商務大臣山本達雄。逓信  
 大臣野田卯太郎。文部大臣中橋徳五郎。貴族院議長公爵  
 徳川家達。元帥伯爵吳保璋。同子爵川村景明。陸軍中將  
 男爵村木雅美。會計検査院長中隈敬藏。學習院長北條時  
 敏。元帥伯爵東郷平八郎。宮中顧問官子爵藤波言忠。内  
 務大臣末次竹二郎。宮中顧問官丸尾錦作。元帥子爵井上



良馨。同男爵伊集院五郎。樞密院副議長子爵清浦奎吾。正三位尾崎行雄。樞密顧問官伯爵芳川顯正。同侯爵井上勝之助。神奈川縣知事有吉忠一等アリ。侍從職日記。侍從武官府日記。侍從職日記。侍從武官府日記。

二月十一日、紀元節ナルモ御遠和ニヨリ葉山御用邸ヨリ還幸アラセラレズ、神宮ニ勅使トシテ掌典子爵河饒公篤ヲ遣シ奉幣セシム。午前十時三十分出御、崇仁親王ヲ始メ皇太子裕仁親王御使東宮侍從長子爵入江爲守。雍仁親王宣仁親王御使皇子傳育官作間富生。供奉宮内高等官。近衛將校。内閣書記官。崇仁親王扈從高等官等ニ謁ヲ賜

圖書寮

紀元節賜宴

フ。又東京ニ於テハ正午豐明殿ニテ紀元節宴會アリ、載仁親王。博恭王。博義王。邦彦王。鳩彦王。成久王。恒久王ヲ始メ元帥伯爵東郷平八郎。内閣總理大臣原敬以下群臣ニ饌ヲ賜フコト恒例ノ如シ。侍從職日記。典侍日記。侍從武官府日記。典侍日記。典侍日記。典侍日記。

憲法發布三十年記念祝賀會ニ御名代ヲ差遣

是ノ日、御遠和ニヨリ青山權田原ナル憲法記念館ニ於ケル憲法發布三十年記念祝賀會ニ行幸ヲ止メ、御名代トシテ載仁親王ヲ遣サル。仍リテ翌十二日載仁親王復命ス。侍從職日記。侍從武官府日記。典侍日記。典侍日記。

山縣。德大寺兩公爵ノ

病ヲ存問セラル

ヲ以テ、東京帝國大學醫學部教授入澤達吉ヲ遣シ、其ノ病狀ヲ問ハシメ、翌十三日侍從原恒太郎ヲ同邸ニ遣シ、物ヲ賜フ。又十四日ニハ侍醫土屋岩保ヲ公爵徳大寺實則ノ邸ニ遣シ、其ノ病狀ヲ問ハシメ、且ツ物ヲ賜ヘリ。

侍從職日記  
恩賜錄

十七日、曩ニ白耳義國ニテ第二艦隊司令官海軍少將佐藤綱次郎以下艦隊乗員優遇ヲ享ケタルニヨリ、皇帝あるペーるニ謝禮ノ電報ヲ發送アラセラル。

官報

是ノ日、神宮祈年祭ニヨリ勅使トシテ掌典子爵長谷信道ヲ遣シ奉幣セシム。

官報  
進退錄

圖書寮

福島安正薨ズ

薨逝ハニニニ、物ハ  
イニ、ニニニ

十九日、陸軍大將正三位勳一等功二級男爵福島安正病篤ニヨリ、特ニ位一級ヲ進メ從二位ニ敘セラレ、其ノ薨ズルニ及ビ祭料金參千圓ヲ賜ヒ、二十二日送葬ニ當リ侍從子爵海江田幸吉ヲ勅使トシテ同邸ニ遣シ幣帛ヲ賜フ。安正、明治十一年陸軍中尉ニ任官以來、陸軍大將ニ累進シ、其ノ間、參謀本部部長。參謀次長。關東都督等ノ要職ニ膺リ、又東宮御用掛トシテ御輔導ニ盡瘁スルコト十四年、屢々皇族ニ隨伴シテ海外ノ盛儀ニ參列セル等功績顯著ナルヲ以テナリ。

侍從職日記  
恩賜錄  
官報

二十一日、朝鮮總督府中樞院顧問從四位勳一等子爵任

一月なり

李太王 喪葬  
國 葬  
諒詞ヲ賜フ

善準病篤キニヨリ、特ニ位一級ヲ進メ正四位ニ敘シ、二十六日送葬ニ當リ勅使トシテ朝鮮總督附武官陸軍少將村田信乃ヲ其ノ邸ニ遣シ幣帛ヲ賜フ。善準、舊韓國內部大臣。度支部大臣ト爲リ、財政整理ニ盡瘁シ其ノ功顯著タリシヲ以テナリ。官報・恩賜錄  
二十二日、大勳位李太王喪病篤キニヨリ、菊花章頸飾ヲ加授セラル。是ノ日德壽宮ニ於テ薨ズ。因リテ二十七日國葬ヲ仰出サレ、勅使トシテ侍從日根野要吉郎ヲ同宮ニ遣シ、左ノ諒詞ヲ傳宣セシメ、且ツ幣帛。神饌及ビ櫛ヲ賜フ。

圖書寮

葬儀ニヨリ  
廢朝

慈顏怡有リ孝道夙ニ聞ユ黔黎恩ニ懷キテ仁聲遠ク揚レリ權域ニ君臨セシコト四十餘年勸儉ノ其ノ風寬厚ノ其ノ德天慈ニ遺サス曷ソ軫悼ニ勝ヘム茲ニ侍臣ヲ遣ハシ賻ヲ齎シテ以テ弔セシム  
尋イデ三月三日國葬ニ際シテハ德壽宮竝ビニ葬場ニ勅使トシテ日根野侍從ヲ遣シ玉串ヲ供セシメ、當日廢朝ヲ仰出サレタリ。  
喪、獻懿大院王 李暲ノ男、李朝開國四百六十一年 嘉永五年七月二十五日誕生、同四百七十二年 元治元年十二月十三日王位ニ即キ、光武元年 明治三十年十月十二日皇帝ノ位ニ登リ、

國號ヲ大韓ト改メ、十一年明治四十四年七月十九日讓位シ、明治四十三年八月二十九日日韓併合ノ際勅旨ニ依リ太王トナリ、德壽宮李太王ノ稱ヲ賜フ。其ノ在位中、同國ハ内憂外患交々至リ、就中、壬午。甲申兩事變、明治二十七八年及ビ三十七八年兩戰役ニ際會シ、遂ニ明治三十八年日韓協約成立ニ依リテ我ガ國ノ保護國ト爲レリ。尋イデ四十年萬國平和會議ニ於ケル密使事件ニ依リテ帝位ヲ皇太子拓ニ讓リ、爾後、德壽宮ニ於テ餘生ヲ送リシナリ。

侍從職日記・侍從武官府日誌・典侍日記・幸辱錄・官報・王公族錄

二十七日、英吉利國皇族ぶりんせず。ばとりしあ。お

ぶ・こんのいとノ結婚ニヨリ、兄あーさー・おぶ・こんのいとニ慶賀ノ電報ヲ發セラレ、三月四日答禮ノ電報ヲ受ケサセラル。外交慶弔錄・官報

是ノ日、南滿洲駐在陸軍部隊並ビニ旅順要港部ニ侍從武官渡邊爲太郎ヲ差遣セラルル命アリ、爾後、遣外部隊ニ侍從武官差遣ノコト左表ノ如シ。侍從武官府日誌・進退錄

月日	差遣先	差遣武官
四月四日	臨時南洋群島防備隊	四電學輔
五月廿七日	北支那中文那駐在陸軍部隊青島守備軍臨時青島防備隊支隊	尾藤知勝
十一月廿四日	西伯利亞及滿洲方面	桑田安三郎

飛行機墜落  
ニヨリ侍從  
武官ヲ差遣

福田參謀次  
長ヨリ田中

三月五日、静岡縣清水ニテ飛行機ろ五十一號演習中墜落シ、搭乗者海軍少佐井上二三雄・海軍中尉山内三郎危篤ニヨリ二三雄ヲ海軍中佐ニ任ジ、位一級ヲ進メ正六位ニ敍シ勳四等旭日小綬章ヲ、又、三郎ヲ海軍大尉ニ任ジ、位一級ヲ進メ正七位ニ敍シ、勳五等雙光旭日章ヲ加授セラレ、侍從武官四龜孝輔ヲ其ノ地ニ遣シ給フ。尋イデ卒スルニ及ビ、各ニ祭料ヲ賜ヘリ。猶ホ是ノ歳、陸海軍飛行機墜落ニヨリ屢侍從武官差遣ノコトアリ。侍從職日記・侍從武官府日記・官報・恩賜錄

六日、參謀次長陸軍中將福田雅太郎ニ謁ヲ賜ヒ、去ル

圖書寮

大隊苦戰ノ  
情報ヲ叢聞

福岡孝弟亮  
ヲ  
御沙汰ヲ賜フ

二月二十七日、浦潮派遣軍中ノ田中大隊、西比利亞ナルあんどれふか附近ニテ露西亞過激派軍ト激戦シ、遂ニ全滅セル苦戰ノ情報ヲ叢聞アラセラレ、

今情況ヲ聞キ部隊ノ全滅ニ至ル迄一同能ク奮闘セシヲ嘉ス

ト御言葉ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府日記・官報・恩賜錄・時事新報

七日、樞密顧問官正二位勳一等子爵福岡孝弟病篤キヲ以テ、特ニ位一級ヲ進メ從一位ニ敍セラル。十二日送葬ニヨリ其ノ前日勅使トシテ侍從子爵松平慶民ヲ其ノ邸ニ遣シ、幣帛・祭料金五千圓竝ビニ左ノ御沙汰ヲ賜フ。

樞密顧問官  
任命

王事ニ執掌シテ廟謨ヲ更始ニ贊シ學政ヲ變理シテ國體ノ扶植ニカメ龍巖已ヲ持シ精誠物ニ接セリ凶問忽ニ至ル痛悼曷ソ勝ヘム宜ク賜ヲ賜ヒテ以テ弔慰スヘキ旨御沙汰候事

ト。孝弟、夙ニ勤王ノ大義ヲ唱ヘ、維新ノ際舊藩主山内豊信ヲ輔ケ國事ニ盡瘁シ、後、文部・司法ノ大輔。文部卿・參議。官中顧問官等ノ要職ヲ歴テ樞府ニ班シ、前後功績顯著ナルモ、就中、五ヶ條御誓文起草者ノ一人トシテ由利公正ト共ニ其ノ名アリ。

侍從職日記・典侍日記・幸略錄・官報

十三日、正二位勳一等伯爵芳川顯正ヲ樞密顧問官ニ任

圖書寮

出羽海軍大將ヲ特命檢閱使ト爲ヌ

ジ、宗秩寮總裁正二位勳一等侯爵井上勝之助ヲ樞密顧問官ニ兼任ス。

侍從職日記・典侍日記・幸略錄・官報

二十一日、海軍大將男爵出羽重遠ニ特命檢閱使ヲ命ジ海軍軍事ヲ査閲セシム。尋イデ五月二十一日出羽特命檢閱使ノ覆奏ヲ叡聞アラセラル。正午依仁親王。博恭王ヲ召シ、千種間ニ於テ午饗ノ御催アリ、元帥子爵井上良馨。同伯爵東郷平八郎。同男爵伊集院五郎。海軍大臣加藤友三郎竝ビニ出羽特命檢閱使及ビ特命檢閱使屬員等三十三名ニ陪食ヲ賜フ。

侍從職日記・典侍日記・官報・宣召錄

二十二日、春季皇靈祭ニヨリ御座所ノ庭前ニテ遙拜ア

大正八年三月

四〇

幸 葉山ヨリ還

ラセラル。侍從職日記・典  
侍日記・祭記録

供奉員

二十八日、午前九時二十五分皇后ト俱ニ葉山御用邸御  
出門、運子停車場ヨリ汽車ニ御搭乘、十一時二十分東京  
停車場御著車、天機麗シク宮城ニ還幸アラセラル。猶ホ  
コノ行供奉ヲ命ゼラレタル者ハ、宮内大臣子爵波多野敬  
直・侍醫片山芳林・同土屋岩保・宮内大臣秘書官木村甚  
三郎・宮内技師林八郎・宮内書記官杉琢磨・同淺田憲一・  
主膳監羽倉信朗・侍從武官長内山小二郎・侍從次長伯爵  
徳川達孝・侍從武官向井彌一・侍從日根野要吉郎・同原  
恒太郎・侍從武官桑田安三郎・侍從男爵澤宣元・同子爵

圖書寮

幸 學習院ニ行

松浦靖・内大臣秘書官北村信篤・侍從男爵徳川義恕・同  
子爵黒田長敬・同加藤泰通・皇后宮大夫男爵大森鍾一・  
皇后宮主事三室戸敬光・侍醫寮御用掛藤木經輝等ナリ。  
侍從職日記・典侍日記・侍從  
武官府日誌・幸時録・官報  
二十九日、午前十一時十分樞密院會議ニ臨御アラセラ  
ル。爾後、屢々コノコトアリ。侍從職日記・侍  
從武官府日誌  
三十一日、午前九時御出門、學習院ニ行幸、卒業式場  
ニ臨御、優等卒業學生ニ賞ヲ賜ヒ、午後零時二十分還幸  
アラセラル。侍從職日記・典侍日  
記・幸時録・官報  
四月一日、皇太子裕仁親王ノ成年式ヲ是ノ月二十九日

大正八年三月

四一

親補式

ニ行ハセラルベキ旨勅定アラセラル。偶、二十三日恒久王薨去ノコトアリシヲ以テ、二十五日勅定ノ期日ニ之ヲ行ハセラレザル旨ノ發表アリタリ。官報

是ノ日、午前十一時表御座所ニ於テ親補式ヲ行ハセラレ、陸軍大學校長陸軍中將從四位勳二等功三級淨法寺五郎ヲ新設セル第二十師團長ニ補ス。官報・侍從武官府日誌・侍從職日記

三日、神武天皇祭親祭アリ、神武天皇山陵ニ勅使トシテ奉典八東清貫ヲ參向セシメラル。侍從職日記・典侍日記・進退錄・祭記録

佛國大使ばぶすと信任

四日、午前十時三十分鳳凰間ニ出御、佛蘭西國特命全

狀捧呈

ばぶすと大  
使等ニ陪食  
ヲ賜フ

權大使こんすたん・シ・あらんたん・えどもん・ばぶすとヲ御引見、信任狀及ビ前任大使ノ解任狀ヲ受ケサセラル。尋イデ五月五日午後零時三十分皇后ト俱ニ豐明殿ニ出御、午餐ノ御催アリ。貞愛親王・載仁親王・守正王・同妃伊都子・稔彦王・同妃聰子内親王ヲ召シ、ばぶすと大使並ビニ内閣總理大臣原敬・宮内大臣子爵波多野敬直・外務大臣子爵内田康哉等ニ陪食ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府日誌・謁見錄・官報・典侍日記

是ノ日、第十四師團長陸軍中將栗田直八郎ニ謁ヲ賜フ。西比利亞駐屯ノ第十二師團ト交替シ同地ニ赴クヲ以テナ



昭憲皇太后  
五年式年祭  
ニヨリ觀祭

リ。侍從職日記・侍  
從武官府日誌

五日、午前十時十分滿洲ニ赴ク守正王ニ謁ヲ賜フ。從侍

職日記

七日、午前十時二十分貞愛親王ニ謁ヲ賜ヒ、尋イデ表

御座所ニ於テ海軍大臣加藤友三郎・參謀次長陸軍中將福

田雅太郎等ニ謁ヲ賜ヘリ。侍從職日記・侍

從武官府日誌

八日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、海外ニ赴ク鐵道

院技師青木勇等四名ニ謁ヲ賜フ。拜謁參拜錄・侍

從職日記・官報

十一日、昭憲皇太后五年式年祭ニヨリ午前九時五十分

綾綺殿ニ渡御、皇靈殿ニ於テ親祭アリ、山陵ニ勅使トシ

親任式・親  
補式

秘露國公使  
備任狀捧呈

テ掌典河備實篤ヲ參向セシメラル。侍從職日記・侍從武

祭記録・官  
内省省報

十二日、午前十時三十分表御座所ニ於テ親任式並ビニ

親補式ヲ行ハセラレ、特命全權大使兼特命全權公使正三

位勳一等男爵林權助ヲ關東長官ニ任ズ。又、陸軍中將從

四位勳二等功四級齋藤季治郎ノ參謀本部附ヲ免ジ、第十

一師團長ニ補シ、第十一師團長陸軍中將町田經宇ヲ罷ム。

侍從職日  
記・官報

十四日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、秘露國特命全  
權公使どん・まぬえる・で・ふれいれ・い・さんでいる

英國臨時代理大使ヲ御引見

ヲ御引見、信任狀ヲ受ケサセラレ、又新任ノ同國公使館附陸軍武官陸軍中佐えくとゝる。まるちねす。えつふえ。竝ビニ今次著任セル英吉利國臨時代理大使べゝるび！おるすとん。同國大使館附陸軍武官旅團少將しー。あーる。うつどろつぶ及ビ解任ノ同陸軍中佐じえい。えい。しー。さまやいるヲ引見アラセラル。侍從職日記・典侍日記・編見録・官報

十六日、午前十時三十分鳳凰間ニ出御、海外ヨリ歸朝セル陸軍砲兵大佐吉井幸太等、英吉利國ニ赴ク陸軍主計少監二村光三、佛蘭西國ニ赴ク海軍大尉川瀬義重等ニ謁

圖書寮

日本美術協會ニ行幸

畜産工藝博覽會ニ行幸

ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府日誌・拜謁參拜録・官報

是ノ日、午後二時吹上御苑馬場ニ於テ、在京陸軍將校ノ馬術ヲ天覽アラセラル。侍從職日記・侍從武官府日誌・典侍日記・官報

十七日、午前九時御出門、上野公園ナル日本美術協會ニ行幸、會頭子爵金子堅太郎以下ニ謁ヲ賜ヒタル後、會場ヲ御巡覽、尋イデ畜産工藝博覽會ニ行幸、會長伯爵樺山資紀以下諸員ニ謁ヲ賜フ。夫ヨリ會場ヲ御覽アリ、一時五十分還幸アラセラル。猶ホ兩會ニ夫、金圓ヲ賜ヘリ。侍從職日記・典侍日記・幸辱録・官報

二十一日、午前十時三十分鳳凰間ニ出御、高等學校長

松川大將等  
ヲ特命檢閱  
使ト爲ス

會議ニ參列セル第二高等學校校長武藤虎太以下十二名ニ、  
尋イデ海外ヨリ歸朝セル臺灣總督府技師松本虎太ニ賜ラ  
賜フ。侍從職日記・侍從武官府  
日誌・拜謁參拜錄・官報

二十二日、午前十時三十分御座所ニ於テ陸軍大臣田中  
義一。第十八師團長陸軍中將柴勝三郎以下各師團長等ニ  
謁ヲ賜ヒ、管下ノ狀況ヲ奏セシメ之ヲ叡聞アラセラル。  
侍從職日記・侍  
從武官府日誌

是ノ日、陸軍大將松川敏胤。同仁田原重行。同本郷房  
太郎ヲ特命檢閱使ト爲シ、陸軍軍事ヲ査閲セシム。七月  
五日各特命檢閱使ノ覆奏ヲ叡聞アリ。正午貞愛親王。載

陸軍中央幼  
年學校ニ行

恒久王嘉去

仁親王ヲ召シ、千種間ニ於テ午餐ノ御催アリ、元帥伯爵  
與保障。同子爵川村景明。陸軍大臣田中義一。參謀總長  
陸軍大將男爵上原勇作。教育總監陸軍大將一戶兵衛並ビ  
ニ前記各特命檢閱使及ビ其ノ屬員等五十五名ニ陪食ヲ賜  
ヘリ。侍從職日記・典侍日記・侍從  
武官府日誌・官報・宣召錄

二十三日、午前九時御出門、陸軍中央幼年學校ニ行幸  
アリ、卒業式場ニ臨ミ優等卒業生ニ賞ヲ賜ヒ、十一時五  
十五分還幸アラセラル。侍從職日記・典侍日記・侍從  
武官府日誌・參事錄・官報

是ノ日、陸軍騎兵大佐大勳位功五級恒久王病篤キニヨ  
リ陸軍少將ニ任ジ、且ツ侍從子爵松平慶民ヲ遣シテ存問

宮中喪

セシメラル。午後七時三十五分遂ニ薨ズ。仍リテ二十五日マデ三日間宮中喪ヲ仰出サル。翌二十四日弔問ノタメ勅使侍從加藤泰通ヲ、二十八日更ニ侍從伯爵清水谷實英ヲ勅使トシテ幣帛・神饌及ビ禱ヲ賜ヒ、二十九日重ネテ勅使侍從子爵松平慶民ヲ遣サレタリ。猶ホ三十日送葬ニ當リ特ニ儀仗ヲ附セシメ、且ツ勅使トシテ侍從伯爵清水谷實英ヲ官邸竝ビニ豊島岡墓所ニ遣シ玉串ヲ供セシメ當日廢朝仰出サレタリ。コノ後、五十日祭・百日祭・一年祭ニモ侍臣ヲ遣シテ玉串ヲ供セシメ給ヘリ。因ニ王ハ能久親王ノ第一男子ニシテ明治十五年九月二十二日誕生、

廢朝

靖國神社鎮座五十年大祭ニ行幸

三十九年三月竹田宮ノ稱號ヲ賜ハリテ新ニ宮家ヲ創立ス是ヨリ先、陸軍少尉ニ任官、第一軍近衛師團司令部附トシテ明治三十七八年戰役ニ出征、武勳ニヨリ金鷲勳章ヲ賜ヒ功五級ニ敍セラレタリ。侍從職日記・侍從武官府日記・皇族身分錄・慶弔錄・官報

五月二日、午前九時二十分御出門、別格官幣社靖國神社鎮座五十年大祭ニヨリ行幸アリ、十時十五分還幸アラセラル。侍從職日記・典侍日記・侍從武官府日記・皇族身分錄・官報

三日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、司法官會議ニ列セル東京控訴院長判事富谷銓太郎等百十九名ニ謁ヲ賜フ

侍從職日  
記・官報

六日、鳳凰閣ニ於テ高等師範學校長會議ニ列セル東京高等師範學校長嘉納治五郎以下八名ニ謁ヲ賜フ。又表御座所ニ於テ第七師團長陸軍中將藤井幸槌ニ謁ヲ賜ヒ、管下ノ狀況ヲ概聞アラセラル。侍從職日記・侍從武官府  
日誌・拜謁參拜錄・官報

皇太子裕仁  
親王ノ成年  
式ヲ行ハセ  
ラル

七日、皇室典範ニ據レバ天皇及ビ皇太子・皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トシ、他ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス。而シテ皇室成年式令ノ制ニ據レバ、其ノ成年ニ違セル當日賢所大前ニ於テ成年式ヲ行フ定メナリ。是ヲ以テ既記ノ如ク皇太子裕仁親王ノ成年式ヲ去ル四月二十九

圖書寮

賢所ニ奉告  
ノ儀

日行ハセラルル旨勅定アリシガ、偶々同月二十三日恒久王薨去セルヲ以テ之ヲ停メ、是ノ日皇太子裕仁親王ノ成年式ヲ行ハセラル。仍リテ賢所ニ於テハ午前六時御殿ヲ裝飾シ、同三十分官内勅任官總代帝室博物館總長森林太郎・帝室林野管理局長官南部光臣・宮内奏任官總代官内書記官杉榮三郎・帝室會計審査局主事林恭次郎並ビニ東宮御學問所職員等著床ノ後、奏樂裡ニ掌典御屏ヲ開キ、神饌ヲ奠供ス。次ニ掌典長公爵九條道實祝詞ヲ奏シ、皇太子代拜東宮侍從伯爵甘露寺受長衣冠單ニテ拜禮ヲ行フ。其ノ退下スルヤ參列諸員ノ拜禮アリ、訖リテ再ビ奏樂ノ

賢所大前ノ儀

起ルト共ニ掌典神饌ヲ撤シ、御扉ヲ閉デ儀畢ル。尋イデ皇靈殿。神殿ニモ亦奉告ノ儀アリ。賢所ノ式ノ如シ。

午前七時皇太子裕仁親王公式鹵簿ニテ東宮御所ヲ出デ宮城正門ヨリ賢所ニ行啓、綾綺殿ニ入ル。九時天皇同殿ニ渡御、侍從ニ奉仕セシメテ御服ヲ束帶ニ改メ給フ。御袍ハ黃楡染ナリ。又皇太子ハ去ル五日賜ハリタル關腋袍空頂黒幘ノ儀服ヲ著ス。此ノ間、賢所ニ於テハ既ニ參列ノ諸員式部官ノ前導ニテ參進、本位ニ就キ、貞愛親王。載仁親王。邦彦王ヲ始メ皇族。王族同ジク式部官ノ前導ヲ以テ參進本位ニ就キ、奏樂祖ニ御開扉アリ、神饌。幣

圖書寮

皇太子ニ冠ヲ授ケラル

物ノ奠供亦式ノ如シ。次イデ九條掌典長祝詞ヲ奏シ、更ニ出御ヲ奏請ス。天皇、九條掌典長ヲ前行セシメテ出御アリ、侍從子爵海江田幸吉御劍ヲ奉ジ、侍從長伯爵正親町實正御後ニ候ス。侍從男爵澤宣元ハ皇太子ニ賜フ御冠ヲ捧持ス。御扉ノ前方ニ於テ御一揖アリ、外陣ノ御座ニ著御アラセラル。九條掌典長。正親町侍從長及ビ海江田侍從寶子ニ候ス。時ニ皇太子ハ掌典次長子爵東園基愛前行ニテ參進、外陣ノ座ニ著ク。東宮侍從長子爵入江爲守。東宮大夫男爵濱尾新等御後ニ候ス。是ニ於テ天皇、九條掌典長ノ捧持セル冠ヲ執リテ之ヲ皇太子裕仁親王ニ授ケ

朝見ノ儀

給フ。皇太子外陣ノ座ニ著クヤ、九條掌典長賜冠ヲ皇太子ニ加フ。天皇内陣ノ御座ニ進御、拜禮アラセラレ、訖リテ入御アリ。供奉出御ノ時ノ如シ。次ニ皇太子内陣ニ參進、拜禮、告文ヲ奏シ、訖リテ退下ス。供奉參進ノ時ノ如シ。尋イデ參列ノ皇族。王族ヲ始メ諸員ノ拜禮アリ、掌典奏樂裡ニ幣物。神饌ヲ撤シ御屏ヲ閉ヂ儀畢ル。是ヨリ猶ホ皇太子ハ皇靈殿。神殿ニ拜禮ノ儀ヲ行フ。

天皇賢所御拜禮ノ後、九時五十分綾綺殿ヨリ還御アリ、尋イデ陸軍式御正裝ニテ皇后ト俱ニ午後一時三十分正殿ニ出御、朝見ノ儀ヲ行ハセラル。即チ陸軍式正裝ニテ參

内セル皇太子ハ式部長官伯爵戸田氏共ノ前導ニテ葡萄一ノ間ヨリ御前ニ參進、恩ヲ謝シ奉ル。天皇勅語ヲ賜ヒ、皇后懿旨ヲ賜フ。次ニ皇太子掖座ニ著クヤ、天皇侍從伯爵清水谷實英。同子爵海江田幸吉ヲシテ御饌。御酒ヲ供進セシム。皇后ニハ權典侍正親町鍾子。掌侍吉見光子ヲ奉仕ス。又皇太子ニモ饌ヲ供セシム。是ニ於テ天皇御杯ヲ執ラセラレ、御一獻ノ後之ヲ皇太子ニ賜フ。次ニ皇后モ亦御一獻ノ後之ヲ皇太子ニ賜ヘリ。執酌ニハ清水谷侍從。正親町權典侍之ヲ奉仕ス。御杯ノコト終ラセ給ヘバ、御箸ヲ立テサセラレ、尋イデ天皇、皇后ト俱ニ入御

皇族以下群臣ノ拜賀ヲ享ケサセラ

各國使臣ノ拜賀ヲ享ケ

皇太子モ亦退下シ儀畢ル。

既ニシテ朝見ノ儀ヲ終ラセ給フヤ、二時ヨリ天皇、皇后ト俱ニ鳳凰間ニ出御アリ、御服ハ陸軍式御正装ナリ。時ニ皇太子ハ牡丹間ニ參入ス。天皇、親王・親王妃・王妃。王族ヲ始メ、宮中席次第一階及ビ國務大臣禮遇竝ビニ其ノ妻ニ謁ヲ賜ヒ、尋イデ皇后ト俱ニ入御アラセラレ、皇太子便殿ニ參入ス。三時正殿ニ出御、宮中席次第二階乃至第三階第二十七ノ者及ビ神佛各宗派管長ニ、同三十分伯子男各爵竝ビニ有位華族ニ謁ヲ賜ヒ、西溜間通御ノ節宮内奏任官ノ拜賀ヲ享ケサセラレ、更ニ四時千種

圖書寮

サセラル

饗宴ヲ催シ給フ

間ニ於テ各國使臣ヲ御引見アリ、皇太子亦同座ス。戸田式部長官・正親町侍從長・侍從武官長内山小二郎・皇后宮大夫男爵大森鍾一以下侍從・侍從武官・女官等侍立シ、濱尾東宮大夫・入江東宮侍從長・東宮武官長小川賢之助モ亦侍立セリ。尋イデ翌八日皇太子裕仁親王ノ成年式ヲ濟サセ給ヘルヲ以テ、皇族・王族・群臣ヲ召シ饗宴ヲ催シ給フ。即チ午後零時五分皇后ト俱ニ豐明殿ニ出御、皇太子裕仁親王ヲ始メ皇族・王族扈從ス。牡丹間通御ニ當リ内閣總理大臣原敬以下前官禮遇以上ノ者竝ビニ其ノ妻ニ謁ヲ賜ヒ、各國使臣竝ビニ其ノ妻ヲ御引見ノ後、豐明



皇都五十年  
祝賀會ニ皇  
后ト俱ニ行  
幸

殿ニ臨御、玉座ニ就カセラル。尋イデ初獻ヲ供進セシメ、  
饗宴ヲ開カセ給フ。此ノ間、式部職樂部員歐洲樂ヲ奏ス。  
尋イデ零時四十五分入御アラセラル。猶ホ翌九日ニハ依  
仁親王ヲ豐明殿ニ臨場セシメ、伯子男各爵及ビ有位華族  
宮内奏任官。同待遇者ニ祝儀ヲ賜ヘリ。官報・儀式錄・  
侍從武官府日誌・  
侍從職日記・典侍日  
記・東宮職成年式錄

九日、午前九時皇后ト俱ニ御出門、上野公園ニ於ケル  
東京市主催ノ皇都五十年祝賀會ニ行幸アラセラル。十時  
五分會場便殿ニ於テ皇太子裕仁親王。載仁親王。同妃智  
恵子。依仁親王妃周子。邦彦王。同妃倪子。鳩彦王。守

圖書寮

市長賀辭捧  
讀

正王。同妃伊都子ニ、又、東京市長子爵田尻稻次郎。東  
京市會議長加藤正義等ニ謁ヲ賜ヒ、十時二十分式場ニ臨  
御アリ、時ニ式場期セズシテ萬歳ノ聲起リテ暫時止マズ、  
市長恭シク賀辭ヲ捧讀、畢リテ本位ニ就キ、天皇。皇后  
ノ萬歳ヲ三唱シ、參列ノ衆員一同之ニ和ス。尋イデ陳列  
ノ教育學藝品竝ビニ皇都當時ノ參考品ヲ觀覽、學藝品ニ  
就キ田尻市長ニ、皇都記念品ニ就テハ子爵金子堅太郎ニ  
説明ヲ爲サシメ、之ヲ觀聞アリ。學藝品ハ御沙汰ニ依リ  
テ悉ク御嘉納アリ。十一時三十五分還幸アラセラル。是  
ノ日天氣晴朗ニシテ風ナク、御通路ハ鹵簿ヲ奉拜セムト

皇都五十年  
祝賀會ニ皇  
后ト俱ニ行  
幸

殿ニ臨御、玉座ニ就カセラル。尋イデ初獻ヲ供進セシメ、  
饗宴ヲ開カセ給フ。此ノ間、式部職樂部員歐洲樂ヲ奏ス。  
尋イデ零時四十五分入御アラセラル。猶ホ翌九日ニハ依  
仁親王ヲ豐明殿ニ臨場セシメ、伯子男各爵及ビ有位華族  
宮内奏任官・同待遇者ニ祝饌ヲ賜ヘリ。官報・儀式錄・  
侍從武官府日誌・  
侍從職日記・典侍日  
記・東京職成年式錄

九日、午前九時皇后ト俱ニ御出門、上野公園ニ於ケル  
東京市主催ノ皇都五十年祝賀會ニ行幸アラセラル。十時  
五分會場便殿ニ於テ皇太子裕仁親王・載仁親王・同妃智  
惠子・依仁親王妃周子・邦彦王・同妃倪子・鳩彦王・守

市長賀辭捧  
讀

正王・同妃伊都子ニ、又、東京市長子爵田尻稻次郎・東  
京市會議長加藤正義等ニ謁ヲ賜ヒ、十時二十分式場ニ臨  
御アリ、時ニ式場期セズシテ萬歳ノ聲起リテ暫時止マズ、  
市長恭シク賀辭ヲ捧讀、畢リテ本位ニ就キ、天皇・皇后  
ノ萬歳ヲ三唱シ、參列ノ衆員一同之ニ和ス。尋イデ陳列  
ノ教育學藝品竝ビニ皇都當時ノ參考品ヲ觀覽、學藝品ニ  
就キ田尻市長ニ、皇都記念品ニ就テハ子爵金子堅太郎ニ  
説明ヲ爲サシメ、之ヲ觀開アリ。學藝品ハ御沙汰ニ依リ  
テ悉ク御嘉納アリ。十一時三十五分還幸アラセラル。是  
ノ日天氣晴朗ニシテ風ナク、御通路ハ鹵簿ヲ奉拜セムト

東京市ニ金拾萬圓下賜

皇族ヲ御差遣

スル萬民堵列シ、眞ニ立錐ノ餘地ナク、歡聲亦止マズ、祝賀ノ綠門ハ先ヅ馬場先ニ、次ニ日比谷公園ニ、有樂町先ニ、京橋。日本橋。神田橋。萬世橋ニ各々設ケラレ、又奉祝花電車アリ、各町ニハ又、種々催物アリ。

猶ホ昨八日田尻市長ヲ召シテ皇太子成年式ヲ行ハセラレ、竝ビニ東京市興都五十年祝賀會ヲ舉行スルニ依リ、天皇。皇后ヨリ東京市ニ金拾萬圓ヲ賜ヘリ。侍從職日記。侍從武官府。

日誌・幸啓錄。典侍日記・官報。

十日、鳩彦王ヲ日本競馬俱樂部春季競馬會ニ遣サル。猶ホ是ノ歳、學校其ノ他ニ皇族差遣ノコト左表ノ如シ。

圖書寮

官報  
皇親錄

月日	御差遣先	御差遣皇族
五月十三日	陸軍經理學校卒業式	貞愛親王
同廿二日	所澤航空第一大隊飛行機操縦術修業式	敬仁親王
七月十四日	軍艦球磨進水式	博恭王
十月九日	海軍兵學校卒業式	依仁親王
同十一日	海軍機關學校卒業式	同
十一月九日	軍艦長門進水式	博恭王
同十六日	東京競馬俱樂部秋季競馬會	同
同廿五日	海軍大學校・海軍軍醫學校・海軍經理學校	裕仁親王
同廿六日	陸軍大學校	同
同廿七日	海軍砲術學校卒業式	依仁親王
同廿八日	海軍水雷學校・横須賀海軍航空隊卒業式	博恭王

東京市ニ金拾萬圓下賜

皇族ヲ御差遣

スル萬民堵列シ、眞ニ立錐ノ餘地ナク、歡聲亦止マズ、祝賀ノ綠門ハ先ヅ馬場先ニ、次ニ日比谷公園ニ、有樂町先ニ、京橋。日本橋。神田橋。萬世橋ニ各々設ケラレ、又奉祀花電車アリ、各町ニハ又、種々催物アリ。

猶ホ昨八日田尻市長ヲ召シテ皇太子成年式ヲ行ハセラレ、竝ビニ東京市奠都五十年祝賀會ヲ舉行スルニ依リ、天皇。皇后ヨリ東京市ニ金拾萬圓ヲ賜ヘリ。侍從職日記、侍從武官府

日誌・幸啓錄・典侍日記・官報。

十日、鳩彦王ヲ日本競馬俱樂部春季競馬會ニ遣サル。猶ホ是ノ歳、學校其ノ他ニ皇族差遣ノコト左表ノ如シ。

官報  
皇親錄

月日	御差遣先	御差遣皇族
五月十三日	陸軍經理學校卒業式	貞愛親王
同 廿二日	所澤航空第一大隊飛行機操縦術修業式	毅仁親王
七月十四日	軍艦球磨進水式	博恭王
十月九日	海軍兵學校卒業式	依仁親王
同 十一日	海軍機關學校卒業式	同
十一月九日	軍艦長門進水式	博恭王
同 十六日	東京競馬俱樂部秋季競馬會	同
同 廿五日	海軍大學校・海軍軍醫學校・海軍經理學校	裕仁親王
同 廿六日	陸軍大學校	同
同 廿七日	海軍砲術學校卒業式	依仁親王
同 廿八日	海軍水雷學校・橫須賀海軍航空隊卒業式	博恭王

月 日	御 差 遣 先	御 差 遣 皇 族
十一月廿九日	陸軍砲工學校卒業式	邦彦王

三島毅・渡邊國武ニ旭日大綬章加授

十二日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、亞米利加合衆國ニ赴ク鐵道技師久米甚太ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・拜謁參拜錄・官報  
 是ノ日、宮中顧問官正三位勳一等三島毅竝ビ正二位勳一等子爵渡邊國武ニ旭日大綬章ヲ加授セラル。孰レモ病篤キヲ以テナリ。薨ズルニ及ビ夫、祭藥料ヲ賜ヒ、尋イデ十四日勅使侍從河鐸實英ヲ三島邸ニ、勅使侍從日根野要吉郎ヲ渡邊邸ニ遣シ幣帛ヲ賜ヘリ。三島毅ハ中洲ト號シ、漢學ヲ以テ顯ハレ、始メ藩費及ビ家塾ニ於テ子弟

ノ教養ニ盡セシガ、維新以後、司法官ヲ志シテ判事ニ任ゼラル。後、東宮職御用掛。東宮侍講ニ擢デラレ、天皇龍潛ノ時側近ニ仕ヘ、殊ニ漢詩ヲ以テ寵ヲ忝ウセリ。即位ノ後、大正四年ニハ内帑金壹萬圓ヲ其ノ家塾ニ松學會ニ賜ヒ、學會ノ資ニ充テシメラレタリ。又渡邊國武ハ維新ノ際國事ニ奔走シ、高知縣令ニ出身以來、累進シテ大藏大臣。遞信大臣ト爲リ、勳功渺カラズ、明治二十八年華族ニ列シ子爵ヲ授ケラレタリ。侍從職日記・官報・恩賜錄  
 十五日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、歐羅巴ヨリ歸朝セル陸軍少將有川鷹一、歐羅巴ニ赴ク陸軍歩兵大佐奥

伏見宮邸ニ  
行幸

平俊藏、濠太刺利ヨリ歸朝セル陸軍歩兵中佐神村正斌等  
ニ賜ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府  
日記・拜謁參拜錄・官報

十七日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、海外ニ赴ク正  
五位男爵島津忠備ニ賜ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府  
日記・拜謁參拜錄・官報

十九日、午後二時御出門、伏見宮邸ニ行幸、便殿ニ於  
テ御休憩、貞愛親王。博恭王。博義王ヲ始メ別當馬場三  
郎以下ニモ賜ヲ賜フ。夫ヨリ餘興御覽所ニ出御、四元鏡  
一・永田錦心ノ藍摩琵琶「錦ノ御旗。鉢ノ木」ヲ、松旭  
齋天洋。同小天洋ノ手品、同松旭齋一光ノ曲藝、江川龜  
之助ノ自轉車曲乘及ビ活動寫眞等ヲ觀覽アリ、ソノ間、

圖書寮

鍋島宮中願  
問官等ニ午  
餐ヲ賜フ

五時四十分食堂ニ臨御、貞愛親王。博恭王。博義王ヲ召  
シ、宮内大臣子爵波多野敬直。侍從長伯爵正親町實正。  
別當馬場三郎。侍從武官尾藤知勝。皇族附武官津田金次  
等ニ陪食ヲ賜フ。七時四十分餘興畢リテ暫時御休憩ノ後、  
八時還幸アラセラル。猶ホ宮邸行幸ニ當リ貞愛親王ニ金  
四千圓ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府日記・典侍  
日記・幸啓錄・官報・貞愛親王事蹟

二十日、霞關離宮ニ於テ邦彦王ヲ臨マシメ、宮中顧問  
官侯爵鍋島直大。錦鷄間祇候小野田元照等三十一名ニ午  
餐ヲ賜フ。猶ホ二十四日ニハ鳩彦王ヲ臨マシメ、同ジク  
殘餘三十八名ノ者ニコノ事アリ。侍從職日記・  
官報・宣召錄

松方内大臣  
等ニ陪食ヲ  
賜フ

二十三日、正午竹間ニ於テ午餐ノ御催アリ。戴仁親王、依仁親王ヲ召シ、内大臣侯爵松方正義。宮内大臣子爵波多野敬直。公爵徳川家達。侯爵淺野長勳等十六名ニ陪食ヲ賜フ。侍從職日記・典侍日記・侍從武官府日記・官報・宣召録

勳章親授式

二十四日、午前十時三十分鳳凰間ニ於テ勳章親授式ヲ行ハセラレ、正三位勳一等子爵平田東助ニ旭日桐花大綬章ヲ、正三位勳一等男爵久保田讓ニ旭日大綬章ヲ親授セラル。侍從職日記・侍從武官府日記・授與式録・官報

二十六日、午前十時三十分鳳凰間ニ出御、海外ヨリ歸朝セル陸軍工兵中佐四王天延孝、海外ニ赴ク陸軍砲兵中

末松帝國學  
士院會員等  
ニ午餐ヲ賜フ

佐西義一等ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・拜謁參拜録・官報  
是ノ日、霞關離宮ニ於テ貞愛親王ヲ臨席セシメ、帝國學士院會員子爵末松謙澄等四十六名ニ午餐ヲ賜フ。侍從職日記・宣召録・官報

帝室制度審  
議會會員等  
ニ午餐ヲ賜フ

二十七日、霞關離宮ニ於テ、宮内大臣子爵波多野敬直。帝室制度審議會總裁子爵伊東巳代治以下委員。華族世襲財産審議會會員。學習院評議會會員。宗秩寮審議官等四十四名ニ午餐ヲ賜フ。侍從職日記・宣召録・官報  
二十八日、午前九時御出門、陸軍士官學校ニ行幸アリ、卒業式場ニ臨御、優等卒業生ニ賞ヲ賜ヒ、午後零時二十

3206 085

大正八年五月

五分還幸アラセラル。侍從職日記・典侍日記・官報

七〇

圖書寮



3206 086

64047

3206 087

